第 18 回いけだ夢燈花

命のストーリー

1st September 2019

主　　催：第 18 回いけだ夢燈花実行委員会

主催事務局：特定非営利活動法人北摂こども文化協会

命のストーリー

池田市在住 30 代女性・匿名

この秋、君は二歳の誕生日を迎えようとしています。

“トツキトオカ“赤ちゃんがお母さんのお腹の中で過ごす時間です。二年前の今頃、あわてんぼうの君は、お母さんのお腹の中から早く出ようとしていました。トツキトオカまでまだあと二か月もあるのに。君の身体は外に出ても元気に過ごせるようにまだ育っていませんでした。「まだもう少しお母さんにしがみついているんだよ」毎日お腹の中の君に声をかけました。お母さんは君がお腹に来てくれるまで、心のどこかで「赤ちゃんが生まれる」ことは当たり前のことだと思っていたのだと思います。でもあの日、初めて君の大きな泣き声を聞き、小さな小さな君を胸に抱いた時、それが当たり前でないことに気が付いたのです。何よりも君に会えたことがとにかく嬉しかった。お父さんもね、君が生れた時、嬉しくて泣いていたんだよ。

生まれてきた君はまだ上手におっぱいも飲めなくて、毎日大泣きしながらおっぱいを飲む練習をしていました。ようやく上手に飲めるようになったのは、生まれて一か月が経とうとしている頃でした。

「人の一生は重き荷を負うて遠き道を行くがごとし。急ぐべからず。」ひいおばあちゃんが大切にしている昔の偉い人が残した言葉です。いつか君も大きくなったら習う日がくるでしょう。夜泣きをして眠れない君を抱きながら、お母さんはこの言葉を思い出しました。そして「今、腕の中には小さいけれどとてもとても重く、尊い宝物があるんだ。君とこれからゆっくりゆっくり歩んでいくんだ」と思いました。その時、君との時間を大切にしたいと心底思いました。

一歳の誕生日を迎えるまでに二回入院も経験しましたね。一度目は風邪をこじらせて、二度目はお腹の病気で手術をするかもしれないと言われました。その時とても生きた心地がしませんでした。こんなに小さな君が苦しんでいるのに、早く良くなりますようにと願うことしかできなかったのです。

それでも君は、大きな口でよく食べ、よく笑い、よく歩く男の子に成長しています。この町でお友だちやたくさんの人に見守られながら、もうすぐ二歳の誕生日を迎えるのです。生後四か月から見守ってくれている先生は、初めておままごとのケーキをプレゼントした時、「せんせいどうぞ」と上手に言えた君を、涙が出るほど嬉しいと成長を喜んでくれました。少し怖がりで、お母さんの後ろをひっついて歩いていた君が、今では「ねえねえ」と人懐っこく話しかけ、いつも笑って応えてくれる優しい人たちがいます。きっと君は覚えていないのだろうけれど…君を優しく見守り、愛してくれる人がたくさんいること、大きくなった君に伝えたいと思います。君を膝にのせて寝ても覚めても電車の絵本を読んでいること、道端の木片がワニのように見えると教えてくれたこと、君のイタズラに腹を立てることもあるけれど、眠たくなったらすぐに甘えてお父さんやお母さんのお腹を触りにくること。その全てが当たり前のような毎日だけど、お母さんにとってはどれもが奇跡のような日々なのです。いつか大きくなったら君に伝わるといいな。そして君のお友だち一人ひとりにも、このような奇跡の日々があることを知ってもらえたらと思います。その日がくるまで、急がず、ゆっくり歩んでいこうね。

命のストーリー　池田市畑在住　海嶋達也

私は現在 61 歳ですが、今から 30 年前の平成元年に母親を肝臓癌で亡くしました。母一人の母子家庭で私が高校生の時に父親とは正式に離婚していました。とある大阪の小さな病院で、自分の続柄を確認されたうえで、主治医の先生からレントゲン写真を見ながら「お母さんは癌です」と告知されました。いきなりの事で返事と質問が出来ず、しばらく息をのんだ状態でした。「お母さんを総合病院に移す手続きをしますので、よろしくお願いします」次の先生の言葉は更に続きました。その時母は 59 歳、現在の一般の寿命を考えれば早過ぎます。総合病院での治療が進む中、自宅への一時帰宅を許されたのが春を待つ 3 月。どうしても母と桜を見たく 4 月の声と共に、肩口を支えながら道路の両脇を桜が満開に咲く近所の名所を二人で歩きました。「一人で生きていきや、お母さんは先に逝くけど」母の言った一言が満開の桜が散る風景と共に今でも忘れられません、その一言に支えられて生きてきました。人の命は誰かを支えるためにあると私は思います。また逢いたくても逢えない人のために精一杯今できる事を誰かのために行うべきです。母は 5 月、旅立ちました。